

### 3 地域別の動向

#### (1) 北海道



北海道地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直しているものの、一服感がみられる。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

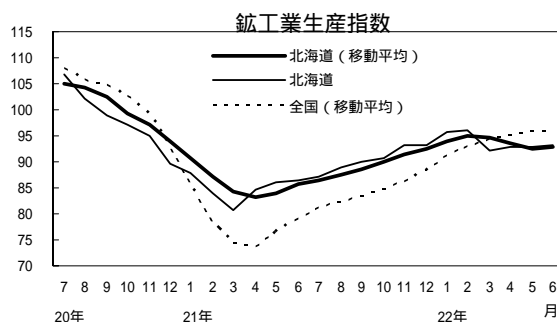
(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更)。

#### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成22年5月)	今回(平成22年8月)
鉱工業生産	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直しているものの、一服感がみられる
個人消費	持ち直しの動き	持ち直している
観光	下げ止まっている	持ち直しの動き
住宅建設	大幅に増加	増加

#### 1. 生産及び企業動向

- (1) 第一次産業は、生乳生産、水産物の水揚量ともに前年を下回っている。  
4～6月期は、生乳生産は、乳製品向けが増加したものの、牛乳等向けが減少したため、総量では1,004,590tと前年比0.5%減となった。水産物の水揚量(主要8港)は、ほっけ、するめいかなを中心に前年を下回っている。足元でも、水面温度の上昇により、旬であるさんまが不漁である。
- (2) 鉱工業生産は緩やかに持ち直しているものの、一服感がみられる。  
食料品は、清涼飲料水、ビールが天候不順の影響で、減少した。パルプ・紙は、選挙等の特需があったものの、工場の定期修理が例年より長かったため、減少した。鉄鋼は、減少したが、基調としては生産が高止まっている。電気機械は、在庫調整が進んだことや、携帯電話機、電子部品の需要増により増加した。金属製品は、公共工事減少により、「橋梁」「鉄骨」の生産が減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1～3 月期	4～6 月期	4～6 月期	4～6 月期
食料品	23.9	0.6	3.5	2.5	4.4
パルプ・紙	10.7	0.7	0.4	2.2	2.2
鉄鋼	8.6	9.8	2.9	4.0	7.3
電気機械	8.4	9.9	9.0	13.2	7.0
金属製品	8.0	1.8	16.5	22.0	27.0
鉱工業	100.0	2.4	1.8	1.0	0.7

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

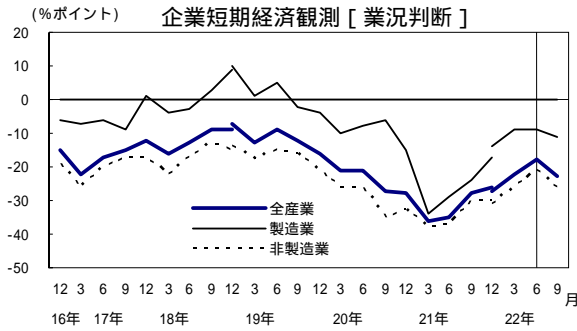
2. 4～6月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値、北海道の最新月は速報値。

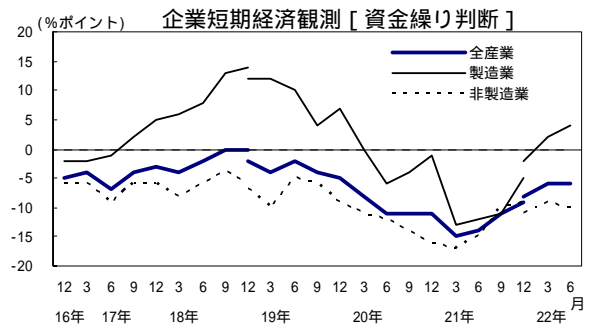
2. 全国及び北海道の大線は後方3か月移動平均。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

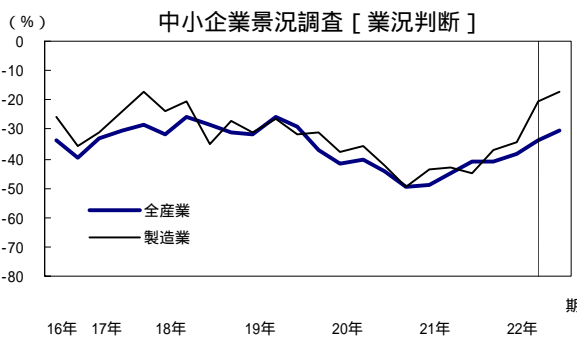
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年9月は予測。18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(6月)[企業動向関連(現状)]

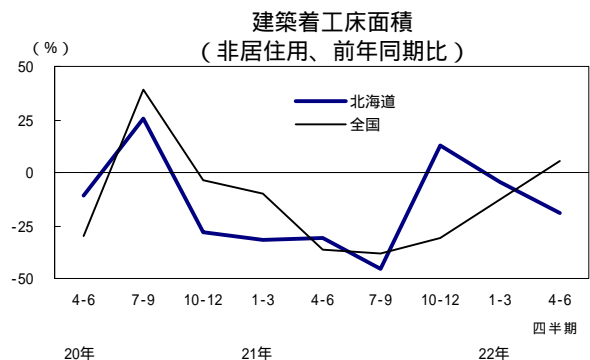
「住宅の建築確認申請件数及び建築着工率が思ったより上昇しておらず、販売量及び受注量が前年並みとなっている(金属製品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(4) 22年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

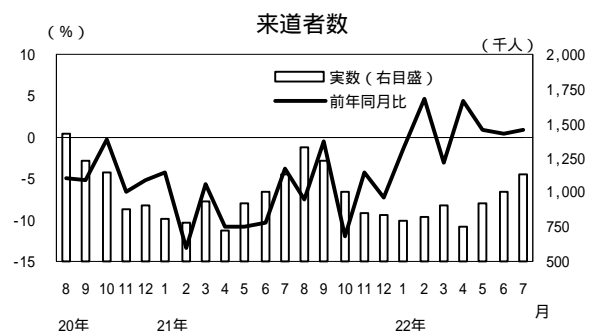
	(前年度比、%)	
	21年度実績	22年度計画
全産業	38.2( 2.2)	26.1( 4.5)
製造業	47.9( 6.5)	29.9( 4.7)
非製造業	33.5( 5.2)	24.7( 8.6)

(備考)( )は前回(3月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は、持ち直しの動きがみられる。

来道者数は、4、5月は、ゴールデンウィークの曜日の並びが良かったこと、桜の開花がずれこんだことで花見客が増加したことから、前年を上回った。6月は特急列車やJRの企画切符が好調だったため、前年を上回った。7月は、航空機、鉄道の来道者が好調だったため、全体でも前年を上回った。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

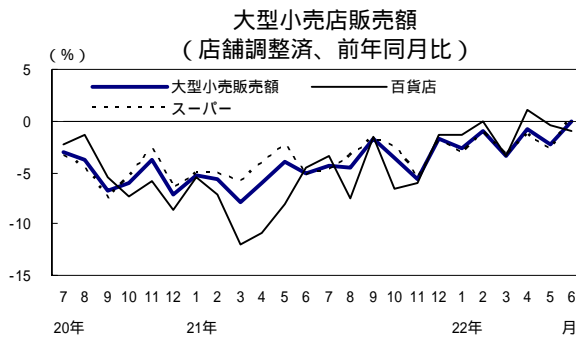
大型小売店販売額

百貨店は、4月は、低調だった3月の反動もあり、春物衣料と身の回り品に動きがあったことや、物産催事で飲食料品が好調に推移したことから、前年を上回った。5月は、気温の低い日が続いたため、夏物商品に動きが出なかったことから、前年比低下幅が拡大した。6月は、気温も高く、天気も良い日が続いたため、夏物商品に動きが出たが、昨年セールが行われたことの反動と、夏のセール待ちによる買い控えが重なり、前年比低下幅が拡大した。日本百貨店協会によると、7月の売上高は札幌地区で前年同月比 0.8%減、札幌を除く北海道地区で同5.5%増となっている。

スーパーは、夏物商品が好調だったことや、来客数は減少したものの、買上点数、単価が前年を上回ったこと等から、前年同期比の低下幅が縮小した。

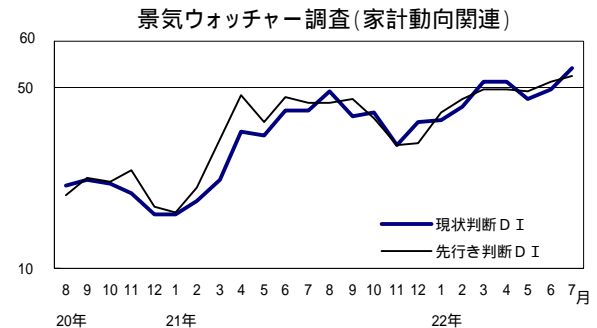
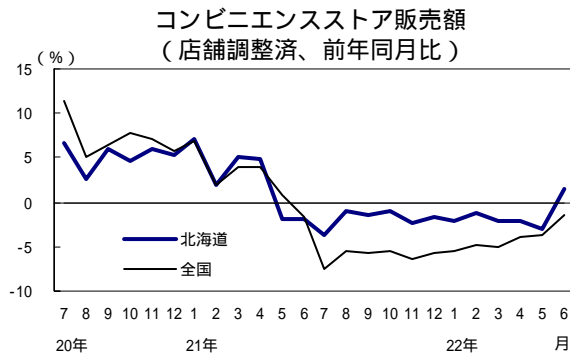
景気ウォッチャー調査(6月)[家計動向関連(現状)]

「格安ツアー商品の販売量だけが伸び、定価商品の販売量が減少しているため、客単価の低下に拍車がかかっており、利益が低下している(観光型ホテル)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	21年7-9月	10-12月	22年1-3月	4-6月
大型小売店	3.5	3.5	2.5	1.0
百貨店	4.1	4.4	1.8	0.1
スーパー	3.3	3.2	2.7	1.3
乗用車	4.4	18.2	21.6	20.7
景気ウォッチャー	45.8	41.1	46.5	49.3

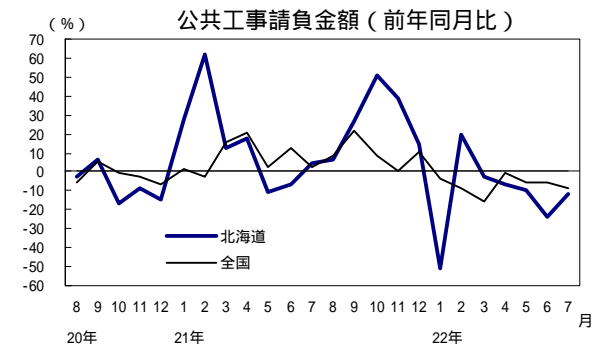
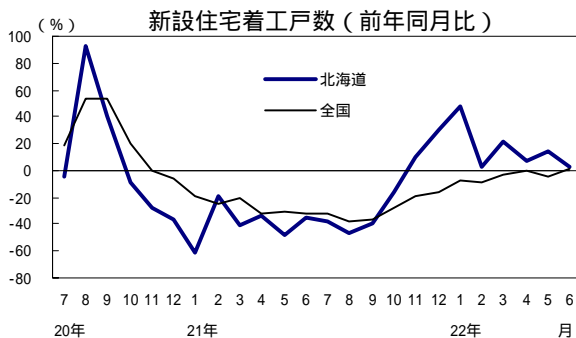
- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。  
 2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。  
 3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は増加している。

持家、貸家、分譲すべてで前年を上回ったことから、増加している。

(3) 公共投資は22年度累計で見ると前年度を下回っている。



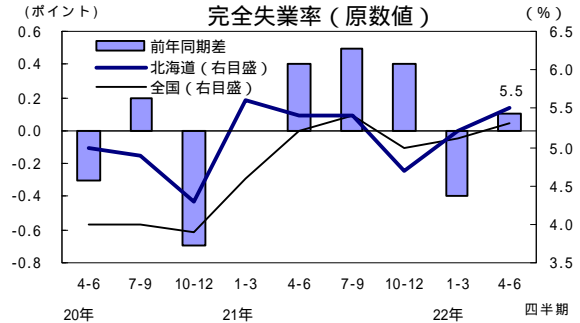
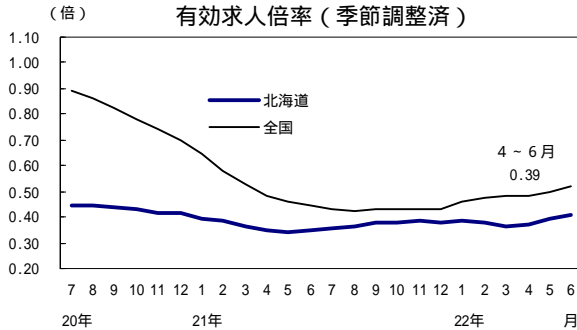
### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率(全数)は上昇している。有効求人倍率(常用)は前年同期を上回っている。完全失業率は前年同期とほぼ同水準となっている。

有効求人倍率の動きには平成19年末の北海道労働局の求人数の計上方法変更も影響していると思われる。



景気ウォッチャー調査（6月）[雇用関連（現状）]

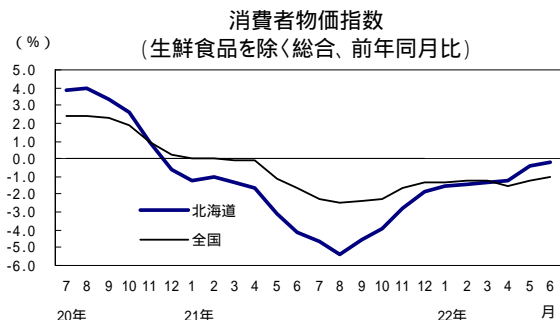
「前年と比較して、求人数は正社員、パートの総数で2割ほど減少している。求人数の動向をみると、大きな変化はないが、相変わらず正社員の求人は少なく、加えて採用基準が高くなっており、並みのスキルの人材では採用されない傾向がうかがえる（人材派遣会社）」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少し、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年7-9月	10-12月	22年1-3月	22年4-6月	22年7月
倒産件数	108	116	109	113	39
(前年比)	43.2	38.6	37.7	25.6	0.0
負債総額	404	398	250	429	97
(前年比)	42.7	30.1	77.0	40.3	15.4



景気ウォッチャー調査（6月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・前年と比較して天候が良いため、夏型商品を中心に売上が増加している。5月は天候不順の影響で観光地や、第1次産業での不振により売上が低迷したが、そういったマイナス要因が今月に入って好転している（コンビニ）。

<先行き>

・中国人の観光ビザ要件緩和に加えて、国内の景気向上等により、観光客が増加傾向に向かう。ただし、国内観光客の動きはまだまだ鈍い（観光名所）。

景気ウォッチャー調査

(合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

